

スコアシート		実施設計段階				全体		
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								3.4
Q1 室内環境								
1 音環境				-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル	-			-	-	3.0	-	
1.2 遮音	-			-	-	-	-	
1 開口部遮音性能	-			-	-	3.0	-	
2 界壁遮音性能	-			-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-			-	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-			-	-	3.0	-	
1.3 吸音	-			-	-	3.0	-	
2 溫熱環境				-	-	-	-	-
2.1 室温制御	-			-	-	-	-	
1 室温	-			-	-	3.0	-	
2 外皮性能	-			-	-	3.0	-	
3 ゾーン別制御性	-			-	-	-	-	
2.2 湿度制御	-			-	-	3.0	-	
2.3 空調方式	-			-	-	3.0	-	
3 光・視環境				-	-	-	-	-
3.1 昼光利用	-			-	-	-	-	
1 昼光率	-			-	-	3.0	-	
2 方位別開口	-			-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	-			-	-	3.0	-	
3.2 グレア対策	-			-	-	-	-	
1 昼光制御	-			-	-	3.0	-	
3.3 照度	-			-	-	3.0	-	
3.4 照明制御	-			-	-	3.0	-	
4 空気質環境				-	-	-	-	-
4.1 発生源対策	-			-	-	-	-	
1 化学汚染物質	-			-	-	3.0	-	
4.2 換気	-			-	-	-	-	
1 換気量	-			-	-	3.0	-	
2 自然換気性能	-			-	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮	-			-	-	3.0	-	
4.3 運用管理	-			-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視	-			-	-	-	-	
2 喫煙の制御	-			-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.5
1 機能性				-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ	-			-	-	-	-	
1 広さ・収納性	-			-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	-			-	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画	-			-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性	-			-	-	-	-	
1 広さ感・景観	-			-	-	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	-			-	-	-	-	
3 内装計画	-			-	-	-	-	
1.3 維持管理	-			-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	-			-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保	-			-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.2	0.50	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振	-			3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-			3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	-			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数	-			3.6	0.30	-	-	
1 車体材料の耐用年数	-			3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-			3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	設計エリア:床タイルカーペットt2、壁ビニールクロス(PBt9.5+12.5)、天井ビニールクロス(PBt9.5+12.5)			5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	ガルバリウム鋼板(排煙ダクト)及びステンレスダクト(局所ダクト)を採用			5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水VLP(B)、排水VP(B)、冷温水SGP(D)、Eは不使用。			4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	-			3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性	空調設備のバックアップを行っている。			3.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	-			4.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	-			3.0	0.20	-	-	
3 電気設備	-			3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	-			3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	-			3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	階高3.9m以上	4.6	0.30	-	-	3.8
		2 空間の形状・自由さ	0.1≤[壁長さ比率]<0.3	5.0	0.60	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり		床荷重:4,500N/m ² 以上	4.0	0.40	3.0	-	
	3.3 設備の更新性			4.0	0.30	3.0	-	
		1 空調配管の更新性	-	3.2	0.40	-	-	
		2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
		3 電気配線の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	-	3.0	0.10	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		クリーンルーム空調用に仮設発電機接続回路・切替装置を設置	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出			敷地の生物環境を把握し、適切な植栽、維持管理を行う。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			-	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			-	3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.44、LED照明設備を採用	4.2	0.63	-	-	4.2
	集合住宅以外の評価		-	4.2	1.00	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.25	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		-	3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		-	3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		-	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水		自動水栓に加えて、節水型便器も採用している。	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		-	3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70	-	-	
	2 雜排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.60	-	-	3.0
	2.1 材料使用量の削減		-	3.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		壁と仕上材が容易に分別可能となっている。OAフロアも採用している。	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法に該当しない建材種別が2つある。	4.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		-	3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO ₂ 排出率75%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
	2.1 大気汚染防止		-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		-	2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減		指導対策量以上の雨水貯留量を確保している。	4.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		-	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.3	0.33	-	-	2.3
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		-	2.3	0.40	-	-	
	1 騒音		-	3.0	0.33	-	-	
	2 振動		-	1.0	0.33	-	-	
	3 悪臭		-	3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		-	1.9	0.40	-	-	
	1 風害の抑制		-	1.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制		-	1.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制		日影基準に対して1ランク上の基準を満たしている。	4.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		-	3.3	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		ガラスに反射を抑えるフィルムを貼り反射光の発生を低減する。	3.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	4.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	2.0	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	11.0	-	2.0	2.0	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	9.0	-	-	-	1.0	2.0	2.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雜排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 軀体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	5.0	-	1.0	-	2.0	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -

U値(W/m²K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -

住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -

昼光率 0.0%

自然換気有効開口面積率 0.0%

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 軀体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

集合住宅の評価

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 軀体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

外構緑化指標 32% 建物緑化指標 0%

空地率 35% 水平投影面積率 3% 地表面対策面積率 11% 蘆装面積率 16%

BPI/BPI_m - 断熱等性能等級 対象外 相当自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年 m² 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

BEI/BEIm 再エネ有 0.44 無 0.44 オフサト再エネ有 - -

一次エネ削減率 再エネ有 無 -

雨水利用率 0.0%

特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

使用比率 0.0%

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP)

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

見付面積比 111% 隣棟間隔指標Rw 0.46

地表面対策面積率 12.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%

見付面積Sb 1.841m² 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 94 m 基準高さHb 17.67 m緑地 594m² 水面 m² 保水性対策面 m² 高反射対策面 m² 再帰性反射対策面 m²